



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.9.24 No.3466

第18回定期大会の成功をかちとろう

反合・運転保安確立、動乗勤改悪阻止

九月二十九日から開催される第十八回定期大会において、なによりも第一に反合・運転保安確立、動力車乗務員勤務制度改悪阻止にむけて全力をあげた闘いの方針を確立しなければなりません。

すでに明らかにされているように、今回提案された動乗勤の内容は、現在の制度をより一層改悪されています。その特徴点は、①動力車乗務員(運転士)と列車乗務員(車掌)の勤務制度を同一のものとする。②「超勤前」の勤務を認め、七時間十分で交番を組む。③「超勤前」としながらも、行先地での待ち合わせ時間や訓練時間などを労働時間から排除すること。④より一層の労働強化が狙われていること。⑤準備時間・入出区時間などの基準をなくし、「実態」の名のもとに切り詰めを狙っています。⑥一継続乗務キロの制限をとりはらったこと。⑦よりロングランが可能になっています。またこれまで「上限」を定めていたものを、「下限」を基準にすることによって「ノルマ」を強制するやり方になっています。

われわれは、今こそ労働条件の抜本的な改善の闘い、運転保安確立の闘いの強化・再確立が求められているといえます。今定期大会での熱心な討論のなかから、反合・運転保安確立、動乗勤改悪阻止、JR体制打倒の闘いの方針を確立しよう。

アゴヒモは必要ない! - JR総連がおもわず本音? X JR東労組はどうするの?

JR西日本は、九月から運転士の制帽のアゴヒモの着用を廃止した。

一方JR東日本においては、いまだに乗務員へのアゴヒモを強制しているばかりか、定期昇給やボーナスの時のカットの理由の中に「アゴヒモ〇回」というのが大手をふって出てくる。労働者支配、組合差別の手段になっているのがJR東日本のアゴヒモなのだ。

ところでJR総連の機関誌には、この西日本のアゴヒモ廃止について次のように述べている。「アゴヒモは、単なるアゴヒモではない。「理不尽なしめつけからの解放を意味」。アゴヒモ着用を廃止するだけで、自分の仕事にプライドを持ち、安全運転により一層心がけることは間違いない」などといった、あたかもこれが分裂してつくったJR西労の「成果」であるかのよう

に称している。だがJR総連委員長の福原や松崎の出身の東日本では、いまだにアゴヒモ強要が続いていることをどう説明するのか。「労務管理と錯覚する管理者は非常に多く、勤務態度の評価の対象にまでしている現状」とは東日本のことではないのか。アゴヒモが必要ないことは、JR総連の運転士も思っていることだ。それがいまだに続いているのは、J

R東労組がアゴヒモの推進者であるからだ。アゴヒモが必要ないと思いつつも、労働者支配のためにそれを続ける、ここにJR体制の本質が見てとれる。JR総連こそ運転士にとって、安全にとって最大の敵であることがここでも鮮明になっている。



▽JR西日本は、運転士の制帽のアゴヒモ

着用を九月一日から、全国のJRに先がけて廃止する。蒸気機関車時代から風に飛ばされにくいようにと続いていたが、冷房車の普及で無意味になった、というわけだ。

▽運転士から煩わしいとの声が出ていたが、乗客へのアンケートでも、アゴヒモを「何とも思わない」「見苦しい」との答えが多数を占めた。意を強くしたJR西日本は、社内「保守派」を抑えて自由化に踏み切った。

▽ライバル意識からか、JR東日本はアゴヒモ着用をあくまで堅持する姿勢。「運転席を後ろから見つめるお客様の信頼に、運転士はあごひもでこたえているんです。古くさいですが」と広報マンは精神論を展開。

(上) 朝日新聞、(下) JR総連機関紙



八月十九日
昼過ぎ、JR西労の副委員長から元気な声で電話が入りました。電話の内容は、当日十二時から行われた団体交渉で、運転士のアゴヒモ着用の廃止と、事故処分による購入券支給停止措置緩和等が実現できたという主旨でした。

過激派だとか、革マル派だとか、集中豪雨のように中傷・誹謗を投げかけられるなかで、組合員のため、会社のためとして自立・自主性をもった労働組合づくりに奮闘した仲間達は、いましっかりと地歩を打ち固め、前進しつつあります。蒸気機関車の時代の、後部換気口の時に帽子が飛ばされたために必要とされたアゴヒモは、現時点では事故等での緊急事態の際のみ必要といえます。それを昔からの規則を守らせることで労務管理と錯覚する管理者は非常に多く、勤務態度の評価の対象にまでしている現状も散見されます。アゴヒモは、単なるアゴヒモではないのです。理不尽なしめつけからの解放を意味します。JR西労の組合員は、アゴヒモ着用を廃止するだけで、自分の仕事にプライドを持ち、安全運転により一層心がけることは間違いないのです。事故処分としての購入券支給停止措置の緩和も同じです。福利厚生面までしっかりと受け、責任精神が生まれるはずはないのです。いまJR西労は、あたりまえの労組として、注目されつつ前進しております。